

リフォーム前



① なかえ・台所改修前(写真左)と天井裏の様子(写真右)

《リフォームに向けて》

歴史ある建物は、幾度も増改築を繰り返されているが、最も古い「なかえ」は、築163年前(安政4年)のものが現存する。内装はベニヤやクロスでおおわれ、天井は低く圧迫感と暗いイメージの空間となっている。外壁は、既存板壁の上にプリント鋼板となっており、冷たく古びた印象を受ける。

経年劣化してきた住宅を改修し、代々受け継がれてきた建物を生かし暮らしたいという施主様のご要望があり意匠に加え機能の向上を併せ持つ住まいづくりを目指す。



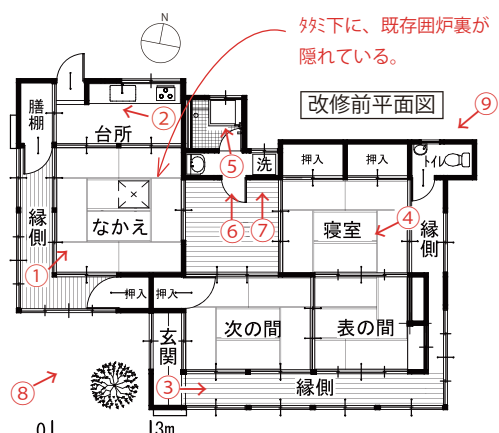
⑧ 玄関アプローチ改修前



② 台所改修前



③ 南側縁側改修前



リフォーム後



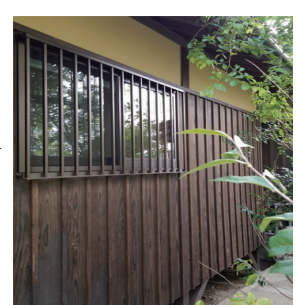
① 既存ベニヤを撤去し、台所と「なかえ」をつなげ、開放的な空間とした。壁は現存漆喰をはがし、当時のワラ入り土壁の上に珪藻土(ベンガラ)塗り壁とし、歴史を感じる内装とした。



② 台所キッチンスペースを北側へ増築
天井撤去→吹き抜けとした。



▲焼き杉板製作状況
炭落とし→磨き



③ 板床→タタミ床に



④ 居間全体を見渡す



▲当時のワラ入り土壁が現れる



《いつまでも暮らしていただける癒しの住まいを完成》

- 吹き抜け部天井～壁は、断熱材を敷き込むことで、断熱性能を向上した。
- 床面には、床暖房システムを採用し、西側ハキ出し窓は複層ガラスと断熱雨戸を採用することでさらに断熱性能を高め、快適な住空間となるよう計画した。
- 内装壁は、既存土壁の上に脱臭性・調質性の優れた珪藻土塗りとした。これにより本来の漆喰機能を維持しつつ、悪臭・有害物質を吸収することで、快適性に配慮した。
- 洗面脱衣前は、間仕切上部に明り取りを設け、自然採光を確保することで明る印象の空間とした。加えて、処分建具の化粧押え棧を欄間格子に転用することで、当時の繊細な意匠を生かす計画とした。
- 新設玄関アプローチは、玄関と外部をつなぐ縁側的な存在とし、周囲の和風庭園と馴染む仕上げとした。
- 外壁は、当時の雰囲気を感じる腰板(焼き杉仕上げ)+下り真壁とすることで、歴史を感じられ落ち着いた風情のある佇まいとした。



⑤ 浴室サウナ+擬竹



⑥ 新規トイレ



⑥⑦ 洗面脱衣拡張・トイレ増設

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
(有)福山組	(有)福山組一級建築設計事務所 福山 征志	(有)福山組	123年～163年	木造	一戸建て	2019年8月	60日間	770万円	内外装(水廻り)増築～改修